

第2次南砺市教育振興基本計画 第1回策定委員会会議録

1. 日 時 令和元年8月27日(火) 午後2時30分から午後4時55分
2. 場 所 南砺市役所井波庁舎 3階多目的ホール
3. 出席者
 - ・委員13名
 - 水上義行 委員、前田佳弘 委員代理、森田正人 委員、中川加夜子 委員、横山一乃 委員、玉井順一 委員、岩井透 委員、舘英二 委員、長谷川総一郎 委員、山下郁子 委員、小森久美 委員、田尻正美 委員、前田啓子 委員
 - ・事務局17名
 - 松本謙一(教育長)、村上紀道(教育部長)、此尾治和(ブランド戦略部次長・文化・世界遺産課長)、武田秀隆(教育部参事・こども課長)、氏家智伸(教育総務課長)、水上武司(スキー国体推進室長)、安川絹枝(中央図書館長)、北島一朗(教育総務課副参事)、各担当係長(8名)、教育総務課主事(1名)
4. 欠席者
 - ・委員2名
 - 尾田慎一郎 委員、土原久美子 委員
5. 傍聴人数 なし
6. 協議事項 (1) 第2次南砺市教育振興基本計画(案)について

○開会

○挨拶

(松本教育長)

委員の皆さま、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。南砺市が誕生して15年目に入り、教育の場では全学校にエアコンが付けられ、現在は新しく義務教育学校を作ろうとしています。学校教育だけでなく、社会教育、スポーツ、幼児教育など様々な面で南砺市は考えなければならない時期にきています。合併したときの合併特例債がもうすぐ切れる時期にあり、いよいよ皆でアイデアを出し合い、子どもから大人まで住みやすい教育行政を考えなければならないと思います。皆さまからご意見をいただき、それを活かして進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○委員の紹介

○委員長及び副委員長の選出について

※南砺市教育振興基本計画策定委員会設置要綱の規定により、委員長に水上義行委員を、副委員長に岩井透委員を選出。

○委員長挨拶

(水上委員長)

5年前の第1次教育振興基本計画の策定時にも委員として列席させていただき、それからの5年間における南砺市の教育の変遷に非常に高い関心があります。学校教育や社会教育、スポーツ、文化財等の教育の力というのは、これからの未来を作るうえで非常に大きな役割を果たします。そのような意味では、これから策定する5年間の基本計画は、令和の時代を南砺市がどのように進んでいくかということの基盤になるので、気を引き締めて取り組んでいきたいと思えます。

私は長い間、学校教育に関わり、ずいぶん大きな変化を見てきました。例えば学力テストの平均点がマスコミを賑わせてしまい、人づくり、地域づくり、あるいは社会づくりということを求める教育の不易の部分が忘れられているような気がしてなりません。そういう意味では、様々な伝統や文化、それを育ててきた暮らしや習慣など、人として生きていく上で欠くことのできないものがたくさんあるところが南砺市の良さだと思います。今日から一歩を踏み出すこの基本計画ですが、南砺市らしいものができあがればよいと思えます。それはいずれ子どもも大人も、南砺市で育って良かった、南砺市で暮らして良かったと思いつくような社会に結びついていくと思えます。どうかよろしくをお願いします。

○協議事項

※各課長から説明

○今後のスケジュールについて

○閉会あいさつ

(岩井副委員長)

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。貴重なご意見をいただき本当に感謝しています。前回の教育振興基本計画の策定から5年が経ち、社会の変化や、時代の変化に合わせて、今回の第2次教育振興基本計画の策定に取りかかりました。今後のスケジュールでは今年末に議会説明をし、来年早々にパブリックコメントにかけ、4月にスタートする予定になっています。それまでに社会の在り方や、市民のニーズなどを着実に捉え、総合的かつ体系的な計画になればよいと思っています。次回がよりよい会議になるよう期待しています。本日はどうもありがとうございました。閉会とさせていただきます。

質疑・意見

策定委員	教育総務課所管 8ページの②の「令和3年度からの井口地域の義務教育学校開校に合わせ」という表記について、「井口地域での」と表現した方がよいと思う。現状の表記では、他の学校からの子どもも受け入れて、南砺市に新たな義務教育学校
------	---

事務局	<p>を開くということが分かりにくい。</p> <p>11ページの③の「部活動改革を推進するため」という目的を市教育委員会としてあげてよいものか。生徒数が減少する中で、指定校を変更して部活動に参加したり、合同で部活動をしたりしていることは事実ではあるが、改革を推進するために協力するのか。教育委員会として部活動改革を前面に押し出してよいものなのか疑問を感じる。もっと学校の主体性に任せるべきではないか。</p> <p>参考指標については、自分の過去の経験も踏まえると、なかなか達成できないという認識があり、平成26年度のおよその実績値が平成30年度の実績値に、令和元年度の目標値が令和6年度の目標値とほぼ同じになる傾向が高い。単に5年間をスライドしただけの目標設定だと思われては困るので、達成できなかった理由を明確にする必要があると思う。</p> <p>8ページの②の表記については最もなご意見だと思うので、訂正させていただきたい。</p> <p>11ページの③の部活動改革については重要な項目なので、再度検討し、修正させていただきたいと思う。参考指標についても再度検討させていただき、次回ご説明できるようにしたい。</p>
策定委員	<p>生涯学習スポーツ課所管</p> <p>小規模多機能自治の関係で出席した会議で、青少年育成に関する部会の方々がどの程度まで活動したらよいか分からないと言っていたのを聞いた。自治会からそのような意見があったので、おまかせするのではなく、もう少し積極的な方針を提案していただきたいと思う。</p> <p>スポーツの推進について、健康の維持のため体を鍛えましょう、スポーツをしましょうと呼びかけているが、公共施設の利用料など、直接影響する問題があるので、それらの課題も含めて協議していただきたいと思う。</p> <p>スポーツクラブについて、各地域それぞれスポーツクラブがあり、まだ統一されていない状態だと認識している。四つのスポーツクラブを一つにすることは簡単ではなく、今後も指導したり調整したりしていく必要があると思っている。</p> <p>体育協会についても、各競技部会一丸となって推進したいと考えているので、生涯学習スポーツ課には多方面での支援をお願いしたい。</p>
事務局	<p>市で行う青少年育成の会議で、現状の課題や今後の方向性を見直し、施策や事業を検討していきたいと思っている。</p>
事務局	<p>公共施設の利用料については、現在協議中であり、説明会等で様々な意見をいただいている。それらの意見を踏まえながら関係機関・団体と検討しており、利用者の立場、管理者の立場からも調整を図っていききたいと思っている。</p>

	<p>スポーツクラブについては、ある程度統一する方向を見据えていかなければならないと思っている。しかし、各クラブにこれまでの活動の経緯など、折り合いのつけづらい部分がある。より同じような状態に近づけていけるよう協議を重ねているところであり、できるだけ市民の皆さんが利用しやすいクラブになるように進めていきたいと思う。</p> <p>体育協会については、南砺市のスポーツ振興の中心的な組織であるため、今後もより活発に活動できるように連携を取りながら、様々な事業や支援を進めていきたい。</p>
策定委員	<p>こども課所管</p> <p>9 ページの数値目標に「なんと！やさしい子育て応援企業認定数」とあるが、認定の条件を教えてください。</p> <p>10 ページの(4)【現状と課題】に、「専門的支援機関の設置並びに支援体制の強化が求められています」とあり、年々発達障害と思われる子どもが増えているため、そのような方向で動いていただいていることは大変ありがたい。専門的支援機関を紹介してもなかなか予約が取れず、保護者の方からは、申し込んでも3～5ヶ月後にしか予約が取れない状況だと聞いている。現在はわらび学園やきずな子ども発達支援センターなどがあるが、やはり連絡をとっても時間がかかるという状況なので、そのような施設があればよいと思う。</p> <p>子どもの貧困の連鎖については、現実に園で抱えている問題であり、保護者の育児能力が弱い家庭では色々な問題がおきて、様々なところでひずみが生じている。育てられたように育てていくということを考えると、子どもを育てる母親の幼児期にも心をとめていかなければならないのではないかと思う。</p>
事務局	<p>「なんと！やさしい子育て応援企業認定数」については、昨年度から始めた事業で、基本の取組みが5項目あり、40点満点のうち20点以上で認定企業として認めるものになる。この場で回答できる範囲では、例えば、育休に関する配慮があるか、育ボス宣言をやっているか、個別の休暇制度があるかなどを項目別にあげている。資料を持っていないので詳しい内容は回答できないが、細かい内容については別途、お見せしたいと思っている。</p> <p>発達支援の専門的機関については、要望やニーズを捉えながら、今後どのような方法があるかを担当課だけでなく、関係機関とも相談、協議しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>子どもの貧困の連鎖については、実際に問題を抱えている人数をしっかりと捉え、今後対応する関係機関や部署としっかりと連携をとりながら取り組んでいきたい。</p>
策定委員	<p>8 ページの①に「子どもの居場所づくりを支援する」とあるが、この文中</p>

事務局	<p>の子どもの居場所づくりというのは、実際にどこかで行われているものを支援するという意味か。</p> <p>この項目に書いているのは、小規模多機能自治における支援という意味になる。子どもの教育に関する部会の中で、色々ある課題や問題に対して指導や助言をしていきたいと考えており、文中の子どもの居場所づくりは地域の交流センターを指す。</p>
策定委員 事務局	<p>各交流センターの取組みが対象ということか。</p> <p>そのイメージで書いている。</p>
策定委員	<p>6ページの【主な取組み】①に、「乳幼児期に家族で保育している家庭に対しての支援等」とあるが、どのような支援か。</p>
事務局	<p>同文の後半に記載してあるが、祖父母等への子育て講座の開催や手帳の作成がある。小さな子どもを見ている家庭への助成制度を設けている自治体もあるので、参考にしながら制度の在り方について検討し、具体的に進めていきたいと考えている。</p>
策定委員	<p>文化・世界遺産課所管</p> <p>5ページの(2)【現状と課題】に「次代を担う子どもたちが文化芸術に親しむことが大切」とあり、非常にその通りであると思っている。ただ、具体的なことが見えていないので、何か取組みがあれば教えていただきたい。</p>
事務局	<p>次代を担う子どもたちである小中学生に、南砺市にある美術館や曳山会館、埋蔵文化財センターなどに来館してもらい、本物の南砺の文化・歴史・芸術を見てもらうということをこのように表現した。</p>
策定委員	<p>現在、福光美術館で催されている「棟方志功の福光時代展」に南砺市の全5・6年生が観覧に行っているということを聞き、非常に前進していると嬉しく思っている。このような施設に足を運ぶことは非常に大事だと思うので、これからも子どもたちを中心に良いものをたくさん見せてあげてほしい。富山の風土、南砺の風土は他に自慢しても良いほどのものであるし、この風情を子ども達の感性で磨くことが大事だと思っているので、この取組みは今後も続けて行ってほしい。</p>
事務局	<p>教育委員会や各学校の先生方にもご理解をいただき、今年度は「棟方志功の福光時代展」に5・6年生全員が観覧に行っていただけになった。また、中学生を対象にシアターオリムピックスを開催している利賀地域や黒部市での観劇を案内し、こちらで観劇した生徒もたくさんいる。</p>
策定委員	<p>美術館や文化ホールなどは観覧や観劇が目的だが、埋蔵文化財センターは見学に加え火起こしや勾玉づくりなどの体験活動もすることができる。美術館や文化ホールなどが取り上げられることが多いが、体験活動は子どもたちに人気があると思うので、もっと埋蔵文化財センターの活動を広めて行ってほしい。小中学生への働きかけを強くしていけば、もっと入館者数も増える</p>

<p>策定委員</p>	<p>と思う。また、人数は多くはないが、県外から来て埋蔵文化財センターへ寄られる方もいる。私が埋蔵文化財センターに来館し職員と話をした際、無料で入れて体験活動もできる施設はあまり他にはないと感心して帰られる県外の方がかなり多いと聞いた。そのような感想もたくさんあるので、市内外に向けてもっとPRをしていただければ、知名度が上がるのではないかと思います。</p> <p>総括</p> <p>教育総務課5ページの③に「適応指導教室の適正な配置等の計画を推進します」とあるが、現在福光にあるいおう教室と同様のものを他のところにも作るということか。また、「外国人の日本語支援を推進します」という文言もあるが、どのように推進していく予定なのか。</p> <p>こども課7ページの③にある放課後児童クラブは、学校と家庭との中間の組織であり、子どもの居場所だと思う。様々な子ども達が利用しており、中には特別支援学校の子どものも利用するので、職員として働いていると毎日様々な保護者の方と顔を合わせ、声をかけることができる。保護者の方が困っていることを話したり、子どもの状況を話したりできるコミュニケーションの場になっており、これは子育ての面ではとても重要な場所だと思う。学校の先生は教育の専門家であるが、学校まで行って相談することは仕事や時間の都合上なかなか難しい。それが児童館や放課後児童クラブでは、必ずお迎えに保護者の方が来られるので、そこで情報交換や色々なやり取りをすることができる。放課後児童クラブについては、対象が小学生なのでどこが所管なのか分からないが、大事な場であるからこそもう少し具体的な方針などが記されるとよいと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>適応指導教室については、南砺市が非常に広いこと、適応指導教室に通う子ども達が増加傾向にあることなどから、ニーズに応じて他でも開設できないか検討していきたいと思っている。</p> <p>外国人の日本語支援については、現在、支援を必要とする児童生徒が増加傾向にあるが、それに対応できる支援員の方がなかなか見つからない状況にある。ベトナム語やポルトガル語などの支援が必要な児童生徒もおり、実は今年から翻訳機を実験的に取り入れ、それで対応しているところもある。このような対応も含めて、支援していきたいということを書いた。</p>
<p>事務局</p> <p>策定委員</p>	<p>放課後児童クラブについては、たくさんの利用者がおられるので、もう少し具体的な言葉を入れて追加検討していきたいと思う。</p> <p>今年、夏休み中に外国人児童を担任している先生方の勉強会が県教育委員会主催であり、参加してきた。どう指導したらよいか分からない、どこまで理解できたのか分からない、本人も理解できないという状態になっており、先生方の負担があまりにも大きいので、現状の情報交換だけでも為されればよいのではないと思った。</p>

策定委員	<p>「日本語支援を推進します」と書いてあるが、外国の方々なので、日本語だけでなく、日本の習慣を理解してもらえない。日本の生活習慣、特に学校生活の習慣を理解していただけないことがあるので、日本語支援だけでなく、学校で勉強できるような支援というような表記の方がよいと思う。</p> <p>全体1ページの3 計画の体系の「1 豊かな心～」という部分について、「豊かな心」と聞くと多くの学校教員が、バイブルにしている指導の重点という冊子の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」のうちの一つだと考えると思う。ただ、ここにあげられている「豊かな心」とは、指導の重点にある三つの中の「豊かな心」よりさらに上の段階を指しており、「強さ」や「しなやかさ」、「粘り強さ」なども意味していると思っている。この計画でいう「豊かな心」が、読む教員によって捉え方が異なる可能性があるため、誰もが同じように捉えられる表記にした方がよい。</p> <p>教育総務課4ページの【取組みの基本的方向】に「将来地元を支える」とあるが、「支える」という表現よりも、「引っ張っていく」、あるいは「将来は南砺の主役になる」というような文言の方がよいと思った。「支える」という表現では、他に主役がいてそれを支える側という印象を持つ。</p> <p>教育総務課10ページの(3) 健やかな体の育成について、食育の占める割合が多いように思う。食育はもちろん大事だと思うが、子ども達を見ると、家庭の生活習慣の乱れがものすごく多い。生活習慣の乱れとして、ゲーム障害と、ゲーム障害に伴う睡眠障害がある。昔は、「さようなら、明日また学校で会おうね」と言えば本当に翌日会うしかなかったが、現在は「さようなら、夜10時にネット上で会おうね」という話になる。この生活習慣の乱れは小学校で始まっている。食育も大事だが、家庭での障害（ゲーム障害、睡眠障害、ネット障害）に保護者を巻きこみ、小さいときから教育していくことも必要だと思う。健やかな体の育成として、そのような切り口の文言も入れればよいと思った。</p>
事務局	<p>提案していただいたことを参考に、次回までに検討して盛り込めるものは盛り込んでいきたい。「豊かな心」については、基本的な部分になるので、内部で話をして次回報告できるようにしたい。</p>
策定委員	<p>教育総務課2ページの1 学校教育の現状と課題に「地域間においても格差が広がっており」とあるが、単に格差というと学力の格差や体力の格差など、色々な受け止め方をされる恐れがある。様々な方が読まれる文章なので、「格差」という言葉については、もう少し慎重に取り扱うべきだと思う。色々な学校で勤務したが、決して山間部の子どもの学力が劣っていると感じたことも、大きい学校だから何か特別な問題があると感じたこともない。市には、それぞれの学校の特色を伸ばせるよう色々なご支援をいただき感謝しているが、「格差」という表現だけは気をつけていただきたいと思う。また、「特に</p>

	<p>山間部の学校や小規模校については複式学級の解消ができないため、時代に合った教育環境づくりに着手し、進めている」とあるが、時代に合った教育環境づくりは複式学級に限らず行っている。複式学級を持った経験があるが、現にそういった学級で努力している教員もいる。現状の表記では複式学級に問題があるような書き方になっているので、もう少し表現を考えていただければありがたい。</p> <p>教育総務課 8 ページの⑦で、教員の働き方改革にも触れていただき、大変ありがたいが、教員の働き方改革は学力の育成だけにかかる部分ではないような気がしている。基本施策（1）の心の育成にもかかるし、（3）の健やかな体にもかかってくることなので、せつかく取り上げていただければ、もう少しこの位置づけを考えていただけたらと思う。</p> <p>文化・世界遺産課の部分で、「芸術文化」と「文化芸術」を「文化芸術」に揃えるという話があったが、文化・世界遺産課 4 ページ中に 2 箇所ほど「芸術文化」と表記されているところがある。この部分はこのままでよいのか一度ご確認いただきたい。</p>
事務局	<p>教育総務課 2 ページの表記については、事務局側で気づいていない部分もあった。ご意見を参考に修正した形で次回お示ししたいと思う。</p> <p>教員の働き方改革については、事務局側としてもどこに入れ込むべきか迷った部分になる。再度整理をして検討したい。</p>
事務局	<p>文化・世界遺産課 4 ページ中の「芸術文化」という表記については、SCOT サマーシーズンが「芸術文化」という表現を用いていたので、そのイベントにかかる部分のみこれらの表記を残してある。その他の関係については、「文化芸術」という表現で統一している。</p>
策定委員	<p>生涯学習スポーツ課 5 ページの上から中点 3 つ目に「郷土への愛着を深めるため」とあるが、ここで用いている「郷土」とは、南砺市全体のことを指すのか、公民館のあった地域を指すのか、それとも各町内を指すのか。生涯学習スポーツ課 4 ページの【取組みの基本的方向】には「地域の特色を活かした」とあり、郷土と地域の言葉を使い分けている意味はあるのか。南砺市全体を郷土と言うのであれば、全員が南砺市全体に愛着を持てるかという意味になり、それはなかなか難しいと思う。自分の出身の場所なら分かるが他の場所はほとんど知らないという子どももたくさんいる。郷土への愛着を目的に児童生徒向けの事業を実施するというのも書いているので、「郷土」がどの辺のことまでを指しているのかお聞きしたい。</p>
事務局	<p>生涯学習スポーツ課 4 ページの「地域の特色」については、小規模多機能自治に移行したことにかかるものなので、この文中の「地域」は地域づくり協議会レベルの地域を指している言葉になる。他に何かふさわしい言葉はあるか。</p>

事務局	委員さんが言いたいのは、「郷土」や「地域」という言葉の意味が吟味されて使われているのかどうかということだと思う。毎回説明しなくても分かるような使い方をしてほしいと言われている。次回までに言葉の意味がしっかり伝わるようなものにしたらよい。
事務局	生涯学習スポーツ課5ページ目の「郷土」についても、地域なのか市全体なのかを踏まえて、もう少し具体的な表記を考えさせていただきたい。
策定委員	小規模多機能自治で、実際に地域で子ども達を集めて居場所づくりを考えている。この夏休みには交流センターを開放して、毎日勉強を見る他、様々な企画をして子どもを集めるようなことをしていた。こども課9ページの数値目標に「地域主体の学童保育実施数（とやまっ子さんさん広場）」とあり、こども課8ページの【主な取組み】①に子どもの居場所づくりを支援すると書いてある。地域で子どもの居場所づくりをしているところは、この数値目標の学童保育実施数に繋がると捉えてよいか。
事務局	とやまっ子さんさん広場は県単事業であり、4月から地域づくり協議会でも取り組んでいるところがある。県単事業のため、日数制限などの要件があるが、地域での子どもの見守りや主体性を活かした取組みを、担当課としても進めさせていただきたい。そのような取組みを始めたいという思いがあれば事前に相談にのれることもあるし、そこを出発点として具体的な数値目標に計上できればよいと思っている。
事務局	数値目標は、とやまっ子さんさん広場の数だけが対象なのか。委員さんが言いたいのは、各小規模多機能自治で行っている取組みも対象に入れて数えるべきではないかということだと思う。
事務局	担当課ではとやまっ子さんさん広場の数として想定していたが、そのような実態事例があるのであれば、とやまっ子さんさん広場だけにこだわらず、広くカウントしていくことも検討していきたいと思う。
事務局	ぜひそのようにしてほしい。31箇所、全ての地域づくり協議会でできたらよいと思っている。そのような地域になれば、様々な方々と協力しながら地域全体で子育てができると思う。
策定委員	文言の整合性や、似たような言葉を使用しており市民の方が理解しにくい部分もあると思うので、よく整理をして次回の時に示していただきたい。